

## 42歳の旅メモ 1996年2月25日～6日の一部のみ

1996年3月1日

アドロの歌が流れるバスの中、山岳地域を走る路は狭い。砂埃を立てて山々にはオリーブの木と砂地が現れる。窓の外は青、山の頂きは峠に見える。旅好きな団体客を乗せて走る。アンダルシア地方からラマンチャ地方へ駆け抜けてゆく。空は青く 彼らのことを思う。生きて苦しんでいる O さん（彼女はがんで入院していた）。死んで苦しみを抜け出ようとした彼ら（私の友人に自死した二人がいた）。私は3人のことをこの道中で考えている。やがてMの4周忌、そしてYの3周忌。何を考えても悔やんでも人生だ。

よく知っている曲のテープが流れる車内、私は一人で座席に腰掛け、彼らの人生を考えている。山の頂上付近に家々が立ち並ぶ。（午前9時）ここは平地より20km山の奥、感激すべき風景が並ぶ。 広い高速道路に出た。鉄道が通っている。

私は何故に生きている、如何に生きるべきか これではいいのか、様々なことを思わされる長旅である。山々と木々、土と緑、音、光、私に最高の恵みを与えてくれるスペイン路。三月の初日、この土地で自由を味わう旅に送り出してくれた妻よ、子ども達よ。ありがとう。

人はどう生きようと同じならば、この解放感をしっかり味わおう。他人のために生きるのではなく、自身のために生きること。音楽も out of word 言葉がいかに分からずとも、人の声が聞きたくなるものだ。ここは異国、人は人の間で生きてゆくものかも。

J e a n バイレソ 9時31分通過。トイレ休憩はコルドバの交差点にて。Lamancha 乾いた土地。ドン・キホーテの哲学的物語。カンポデクリプターナ

今日はちょっとした作家気分。血圧アップの様だ。右目の眼底出血の時はこれでもう我が人生終わりかと思っていた。それから1年、不死鳥のようにスペインの旅に出ている私である。絶望の先には、また希望が現れるような気がする。

小さな自分を強制される日本／空は広く、大平原が続くラマンチャを走る。アラトビアを走行中、直進120kmはM a d r i d、右上P a n e r o・・・の標識。

自分が自分であるということ、その存在はこの世では一回しかない。なのに人は他人の気持ちになぜ左右されなければならないのか・・・ある人は死を選び、一生を終えた。やがて桜の季節だ。Mが逝った頃になる。誰にも左右されずに生きることが難しいかもしれない。がそれでも自分の思うことを少しでもやるべきでは。

直線道路を行く 左側に まっすぐ伸びた木が道路に向かって直角に並列し突っ立っている。Ventadeljoki/（綴りがおかしいが）/風車がやがてある。11:30 madridへ208km 11:41 あと181km \*プエルト\*\*ラプーサ 301km campo de criptana 大きな風車があり、写真撮影に夢中になる。

1996年3月2日

この数日で、すっかりスペインに魅了されてしまった。現在セゴベアを目指してバスは走行中、山は雪が積もり頂では雲に霞全体像を現していない。午後3時20分 道路際まで雪がポツポツと残る。昼食はレストランで、ニンニクたっぷりのソースをつけた硬めの肉。とてもおいしく いつもの四人でビールとワインを飲んで、その後皆眠り込んでいる。

3月3日 夜11時

TVで本日の選挙票速報をやっていた。画面で運転手は「民主党に入れたという。社会党はだめだ、もう終焉だ」と党首がPSOEのDiscarが嬉しそうに発言している、

もうマドリッド最後の夜だ、7F(9階)710号室のベランダの方には強い風が吹いている。時折救急車が大きなサイレンを鳴らして通り過ぎる。フロリダノルテの夜は更けてゆく。食事ののちコーヒーをホテル備えのを飲む。岐阜県と東京の二人と一緒に、

3月4日からはバルセロナに入る。聖家族教会に登る。ガウディの作品が市内あちこちで見かける。そのすごさに圧倒される。

2月23日 福岡 法華クラブ で前泊

旅程 1996年2月24日 福岡発 JAL380 7:25 成田発 IB6710 MAD

25日 Madrid→Lisbon ・・二日間でベレンの塔、シントラ、ロカ岬など見学  
ポルトガルのFADO を楽しんだ リスボンのレストラン TIPICO にて



26日 Lisbon 泊 (Novotel Lisboa)

27日 セビリアでフラメンコショー セビリア泊

28日 カテドラル 花の小路 古本市 コルドバ泊

29日 アルハンブラ宮殿 カルメン前のデパート見学、BARで勝負 グラナダ

## Hotel Carmen

3月1日 午前8時54分出発 ラマンチャのカンポデクリプターナ  
ドンキホーテに登場するメニューを再現した料理を昼飯に マドリッド泊  
2日 マドリッド泊 トレド観光へ  
3日 マドリッド泊 セゴビア観光へ  
4日 バルセロナ泊 バルセロナ観光  
5日 バルセロナ発 バルセロナ→マドリッド→モスクワ空港経由成田へ  
6日 成田着 10:45 羽田へバス移動 福岡着 熊本へバス  
8日出勤

## 補足

スペインへの興味：スペイン語の思い出

中南米の音楽 フォルクローレ 希望ヶ丘診療所時代 キラバジュン、グラシャラスサーナーの音楽との出会い。

22歳の頃語学学校へ（上通）通い始めた。週1回 その場で勉強するだけ。

40歳に入学した夜学では韓国語とスペイン語を取ったが、やっぱりその場の勉強だけで、あとが続かない。疎遠になるとすっかり忘却の彼方へ。その延長の 42歳のスペイン旅行。大学のスペイン語講師は岡村一で\*ドンキホーテの訳本があった。

最近ネットで調べると

ドン・キホーテ[前・後篇] (セルバンテス全集) 単行本 - 2017/3/21

ミゲル デ・セルバンテス (著), Cervantes (原著), 岡村 一 (翻訳), 本田 誠二 とある。

スペインへの旅があったことで様々なことに踏ん切りをつける事が出来たような気がする。青い空 (Cielo AZUL) は常に頭上にあり、例え雨の日や雪の舞う寒い日でも必ずその雲の上には青空が存在する。それから50歳になって購入した山の中のギャラリーをAZULという名前にしてしまった。お客様こそないが、今は私にとっては大事な居場所となっている。草刈りは大変だが汲み上げる湧き水は美味しい。時折木々の上に青空がある。